



のだ しんご
野田 真吾さん

大村市
年齢 37歳

農作物 **温州みかん、ミニトマト (夏秋)**

Q1 新規就農に至るまで(経緯・背景)

ハウスびわを中心とした専業農家(大村市)に生まれ、自分も農業(温州みかん)をずっと幼い頃から決めていました。中学校を卒業後、大村城南高校(園芸化学科)と口之津果樹試験場(2年間)を経て、20歳の頃にJAながさき西海の温州みかんを中心とした果樹専門の営農指導員として、10年間、携わらせて頂き、果樹経営の様々なノウハウを農業者の皆様から学びました。

親元就農ではなく、収支を自ら学ぶ為に、父と別経営で独立自営を決め経営を開始しました。その際、国の制度もあり、経営開始型を受給させて頂きましたが、年一回の収入がある温州みかん経営をしていた為、当初自己資金を含めても農業経営は厳しく、約2年間は多種多様なバイトを日夜掛け持ちしながら農業を始めました。

JAでの営農指導経験から、積極的に会合等に参画する大切さを知っていた事もあり、地元の方や先輩農家の方から信頼される事を大切にしました。そして、就農8年目には我が家の経営が、令和4年度第24回全国果樹技術・経営コンクール農林水産省農産局長賞など受賞させて頂きましたが、表彰いただけたのは先輩方や関係機関のご支援の賜物と感謝しています。

Q2 経営の推移と今後

	経営初期 (1~2年目)	現在 (就農8年目)	今後の目標 (2年後)
品目面積	温州みかん 140a 露地野菜 10a	温州みかん 350a ミニトマト(夏秋) 5a	温州みかん 400a ミニトマト(夏秋) 5a
経営内容	全て農地は借用で、親とは別の経営を開始した。また、既存の畑での栽培もあったが、同時に改植による苗育成にも取り組んだ。	就農5年後(H31)目標の255aを大きく上回り栽培面積を拡大。独自のジュース等、加工販売にも積極的に挑戦している。	親の経営を統合(計画)し、法人化も視野に入れた経営発展を目指す。農作業等の派遣会社設立も目標としている。

これから就農する方へのメッセージ

私は幼い頃から親の背中を見ながら農業の楽しさや厳しさを見てきました。農業を夢に見て、学校やJA指導員として学ばせて頂きました。30歳には夢であるみかん農家になる為、JAを退職し、いざ温州みかん農家へ転職しました。しかし、JA指導員の経験などもあり農業の厳しさも知っているつもりでしたが、就農して自ら経営していくのは本当に大変で、生活面も含め、資金繰りが本当に大変な時期もありました。

農業をやりたいと思って頂ける事は、仲間として本当に嬉しい事ではあります。しかし、実際に就農すると「やってみよう」では本当に思い描く農家とは程遠く上手くいかず、厳しい事ばかりです。

農業は本当に夢があり、生きていく上でも一番大切な職業でもあります。私が一番大切にすることは、「志」を持つことです。そして、その「志」を持った仲間(「同志」)を作ることが大事だと考えています。その同志がいれば、楽しい事や厳しい事を分かち合えますし、時には良きライバルとして意識を向上できる仲間になるからです。

農業は一人ではできません。人とのつながりを大切にし、関わりのある方への感謝の気持ちを常に忘れないことが自分自身の成長につながると考えています。

Message



かわしま こうだい
川島 功大さん 佐世保市
 年齢 32歳

農作物 **肉用牛（肥育）**

Q1 新規就農に至るまで(経緯・背景)

実家が農家であり、鹿児島県の農業大学校に進学した。卒業後、実家の経営を手伝っているうちに、独立して自分で牛を飼いたいと思った。

牛舎は空き牛舎を活用でき、素牛は青年等就農資金を利用して導入できたので、スムーズに就農できた。

Q2 経営の推移と今後

	経営初期 (1~2年目)	現在 (就農8年目)	今後の目標 (2年後)
品目 面積	肉用牛 (肥育) 60頭	肉用牛 (肥育) 67頭	肉用牛 (肥育) 70頭
経営 内容	・肥育期間中 ・堆肥販売 60t	・生産量 39頭 ・出荷月齢 30~31カ月齢 ・堆肥販売 100t	・生産量 42頭 ・通常出荷月齢32カ月齢、 共励会用牛については、 35カ月齢を目指す。 ・肥育期間を延ばして肉質 (脂質)の向上を目指す。 ・堆肥販売 100t

※目標収量(単収)、目標売上(所得)、品種選定や更新、補助および融資による設備投資、
 新技術や販路拡大、6次産業化等について

これから就農する方へのメッセージ

肉用牛の肥育に取り組んでいるが、地元と同じ世代の肥育農家の方がいなかったの、市場などの出荷先等、消費地に近いところの話を聞くなど、新しい情報の入手を図った。就農後は幅広い情報収集が大事だと思う。

また、振興局などのデータを参考にしたり、試行錯誤しながら取り組んできたが、就農定着後、日々勉強していくことも大切である。

地元4Hクラブや、削蹄師会に入会するなどして、就農後の地域への溶け込みを図った。交流することで参考になることが多いと思う。

Message